

# まちなかキャンパス化のビジョン

山田 耕太 ● 敬和学園大学長

## はじめに

本学は、人口約10万人の新潟県新発田市および隣接する人口約1万4000人の聖籠町の多大な支援の下で、1991年に開学した単科大学である。人文学部国際文化学科、英語文化コミュニケーション学科、福祉系の共生社会学科の3学科で構成され、学生数650人程度の小規模大学である。キリスト教主義リベラルアーツ教育による人間教育、グローバルな視点を養う国際主義教育、地域社会を担う人物を育てる地域主義教育。これら三つを柱として、本学のミッション・ステートメントは構成されている。すなわち、人間らしい人間となり、グローバルな視点で考え、地域社会で活躍する人物を育てていくことをうたっている。

## 1 地域循環型教育

学生の8割以上が新潟県内高校の出身であり、その約7割が県内に就職する。そこで2008年にPDCAサイクルの中長期計画を立案した時に、中長期ビジョンとして「少子高齢化と地域格差の進む時代に、持続可能な社会の担い手を育成する」と定め、地域貢献教育に力を入れていくことにした。新発田市を初め、県内の中小都市では商店街の相当数がシャッター街となっているが、2008年には、商店街の空き店舗を利用して学生が運営する「まちカフェ・りんく」を開設した。

2013年度には、地域社会で活躍している企業の長や自治体の首長などにチェーン・レクチャーをお願いし、講義の翌週には企業や自治体を見学する、全学に開かれたい。とそのまま新潟市内に帰るといパターンが多かったが、いまではまちなかのアクティビティに参加する学生が増えている。地域社会の活動による学生の成長は目覚ましい。

た2年次選択科目「地域学1・2」を開設した。2015年度には、「地域学1・2」への導入科目として1年次必修科目「地域学入門」を開設し、地域社会の歴史・文化・社会のチェーン・レクチャーの中に、バスハイイク、フォトウォーク、フォトコンテストの活動を組み入れた。同時に、「地域学入門」「地域学1・2」を核に、各学科の地域関連科目をパッケージにして、「アクティブ・ラーニング演習」「アクティブ・ラーニング実習（中長期インターンシップ）」「地域学研究」を加え、全学に開かれた「地域経営プログラム」（30単位）をスタートさせ、卒業式で修了証を手渡すことにした。

地域社会における活動で気付いたことを大学の学びで深め、大学で学んだことを地域社会の活動で経験知にし、地域社会と大学の間のフィードバックを繰り返して実践的な知識を形成していくために、新しい「タウン」と「ガウン」（大学）の関係をつくり、地域社会から学び、地域社会に生かす地域循環型教育を築きつつある。

## 2 まちなか定住化から地域再生へ

本学は、市街地と田園地帯の境界に立地している。以前、学生は新潟市内からJRや車で登校し、学び終える

2016年には、まちなかの活動を促すために、新発田市・建設会社・本学の三者による産官学連携で新発田駅前再開発事業として、新しいコンセプトの市立図書館「イクネスしばた」と、それに連絡通路で接続する民間棟「ミント館」（1階はコンビニ・観光案内所・理髪店・コインランドリー、2階は内科・皮膚科・小児科の医療モール）の複合施設を建設し、その中に本学の学生寮を置いた（3階男子寮18人、4階女子寮22人）。

今後は、新発田駅から本学に至る駅前商店街の空き店舗を産官学連携で徐々に改築。点から線へと展開し、さらに学生がまちなかに住み込んで活性化を促していくビジョンを思い描いている。このようにして、地域社会に職を得て定住し、地域再生を促して地域社会に貢献する人物の育成を目指している。